



未来に羽ばたけ 日奈久中卒業生 —第77回卒業式挙行—



3月8日、第77回卒業証書授与式を挙行了しました。本年度は、八代市経済文化交流部長の野々口正治様をはじめ、5年ぶりに沢山のご来賓の方々をお招きし、卒業生の門出を祝福していただきました。

卒業証書授与では、どの生徒も凛とした表情で証書を受け取ってくれました。卒業生の返事や所作の一つ一つに義務教育最後を締めくくるそれぞれの思いが伝わってきました。

校長辞では、学年ごとのエピソードや成長の足跡などを紹介。不透明な時代だからこそ、正しい心を持つこと、何が正しいのか学ぶこと、学んだことを社会に生かすことの大切さを伝え、「感謝の心」「夢への挑戦」を大事にしてほしいと話しました。その後、教育委員会教育部の松川次長から告示をいただき、八代市長代理として野々口部長、続いてPTAを代表して山下会長から祝辞をいただきました。

在校生を代表して、2年生の川上ひかるさんが、「これまで大きな行事で学校全体を引っ張り、先いよ方向にリードしてくれたい先輩方、本当にあり過ぎてうざい日がありました。一緒に過ごした日々、思い出は一生忘れません」と送辞を述べました。これに対し、答辞は卒業生全員が自分の思いを発表しました。職場体験学習、修学旅行、小中合同運動会、文化祭などの思い出、お世話になった先生方や親・家族への感謝の気持ち、そして、最後に「沢山の人との出会いを通して、人との関わり方を学んでいきたいです。今の世の中で自分は何ができるかを考えて、これからも多くのことに挑戦し、頑張っていきます」と抱負を述べ、答辞の言葉を結んでくれました。

本年度の卒業生は、とてもやさしくて思いやりがあり、学級の一人一人が温かい絆で結ばれていたように思います。また、後輩への面倒見も良く、後輩から慕われていました。これからも絆を大切にしながら、ふるさと日奈久を愛し、それぞれの夢の実現に向かって大きく羽ばたいてほしいと思います。卒業生の未来に幸多きことを願っております。



卒業制作に挑戦



卒業を控え、3年生が美術の授業で卒業制作に挑戦しました。吉岡位織教諭の指導のもと、制作したのは八代妙見祭のシンボル「亀蛇」です。アイデアを出し合い、丁寧に仕上げ、本物そっくりのがめさんが完成しました。現在、学校の玄関に展示しています。ぜひ、見に来てください。

盛り上がった「3年生を送る会」

3月1日に「3年生を送る会」を開きました。これは、卒業を迎える3年生と一緒に思い出に残るようなレクレーションをして楽しむことで交流を深めようと、新生徒会が企画したものです。内容は、1チーム4人、合計8チームのトーナメントによる百人一首大会です。レクレーションとはいえ勝負は勝負。どのチームも真剣に読み手の声に聞き入り、札を探す姿がありました。それでも全学年の生徒たちが集まって行うレクレーション。札を取ったり取られたり至る所で歓声がおこり、3年生との楽しい時間を過ごすことができました。最後は、1、2年生がアチを作り、3年生を送り出しました。



この一年を振り返って

この一年、一番大きかったことは、新型コロナウイルス感染症が5類区分に引き下げられ、日常の学校生活が戻ってきたことです。様々な規制が緩和され、運動会や文化祭、先日の卒業式にも地域の方々をご来賓としてお招きし、日奈久の子供たちが成長していく姿を見ていただくことができました。「地域とともにある学校」を経営基盤としております本校にとっても嬉しい一年でありました。

また、本日本年度の教育課程を無事修了することができました。職員一同微力ではありますが、精いっぱい教育活動に当たらせていただき、生徒たちが着実に学力や体力、人間性を身に付けておりますことを実感しています。これもひとえに、日頃からの保護者や地域の皆様のご理解とご協力の賜だと心から感謝申し上げます。

来年度は14名の新入生を迎え、生徒数35名の出発です。今後とも変わらぬご支援とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。